

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 26 号

第 26 週(6月 27日 ~ 7月 3日)

発行年月日:平成17年(2005年) 7月 8日

発行:滋賀県衛生科学センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (26週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (26週)	全国 (26週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 5	270	9	576
	腸チフス	0	0	23	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	881	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 24	1	34
	オウム病	0	1	25	1	39
	デング熱	0	1	16	2	45
	マラリア	0	0	32	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	1	341	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	149	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	31	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	3	561	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	31	2	85
	梅毒	0	0	247	4	516
	破傷風	0	0	44	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	34	0	49
急性脳炎	0	1	^{(*)3} 115	1	164	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。

*3:平成17年第24週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

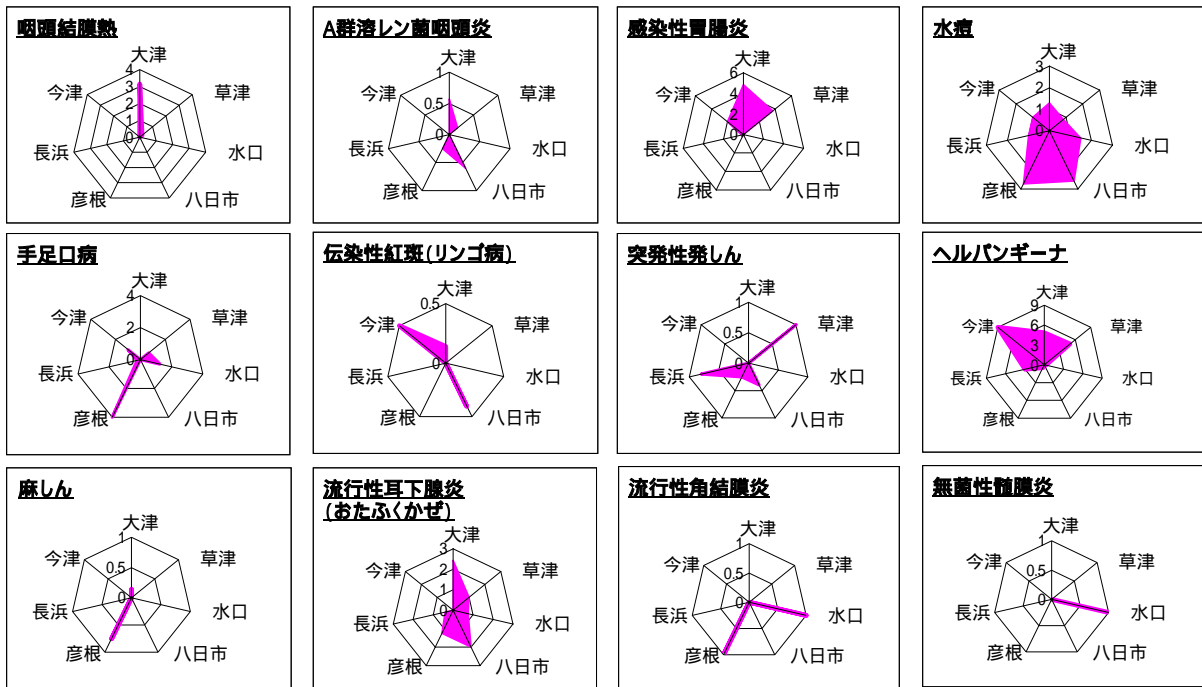
(1)疾病別・週別発生状況(第21~26週、5/23~7/3)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	21週	22週	23週	24週	25週	26週	週					
	(5/23~)	(5/30~)	(6/6~)	(6/13~)	(6/20~)	(6/27~)	22	23	24	25	26	
インフルエンザ	0.45	0.59	0.47	0.24	0	0						
RSウイルス感染症	0	0.09	0.09	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.55	0.67	0.48	0.61	0.73	0.70						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.64	0.52	0.61	0.70	0.67	0.27						
感染性胃腸炎	3.91	4.15	3.42	2.42	2.88	1.88						
水痘	2.91	2.24	3.45	2.85	2.36	1.55						
手足口病	0.30	0.21	0.21	0.42	0.42	0.85						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0.03	0.09	0.15	0.06	0.12						
突発性発しん	0.42	0.70	0.58	0.61	0.79	0.39						
百日咳	0	0	0.03	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0.06	0	0.06	0						
ヘルパンギーナ	0.36	0.27	0.70	1.30	1.94	3.03						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0.03	0	0.03	0.03	0.12						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.97	0.94	1.06	1.33	1.42	1.30						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
流行性角結膜炎	0.29	0.57	0.29	0.29	0.71	0.29						
細菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0.14						
無菌性髄膜炎	0	0	0.43	0	0.14	0.14						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第26週、6/27～7/3)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.70	3.14	0.17	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	0.57	0.17	0	0.60	0.25	0	0
感染性胃腸炎	1.88	4.86	3.67	0	0	0.25	0.20	2.00
水痘	1.55	1.29	0.83	1.50	2.60	2.75	1.00	1.00
手足口病	0.85	0	0.67	1.25	0	4.00	0.20	1.00
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.12	0.14	0	0	0.40	0	0	0.50
突発性発しん	0.39	0	1.00	0	0.40	0.25	0.80	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	3.03	4.86	5.00	0.25	0	0.50	3.00	9.00
麻しん(成人麻しんを除く)	0.12	0.14	0	0	0	0.75	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.30	2.43	1.00	0.75	2.00	1.25	0.40	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.29	0	0	1.00	0	1.00	0	0
細菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数) 戻る



今週の発生状況：

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。咽頭結膜熱は先週と同様に大津で多くなっています。流行性耳下腺炎は先週よりやや減少していますが、大津および八日市でやや多く発生しています。無菌性髄膜炎は第23週(6/6～6/12)以降患者発生の報告が続いていますので今後の動向に注意が必要です。また、細菌性髄膜炎は長浜から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法：感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

手足口病、ヘルパンギーナの発生は急増 麻しんの発生は増加 海外渡航者から細菌性赤痢患者の発生

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(6月20日～6月26日)の報告数より少なくなっていますが、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、麻しんおよび細菌性髄膜炎は増加しています。その他の疾患については減少または横ばいとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、全数把握の2類感染症である細菌性赤痢の届出がありました。患者はフィリピン旅行中に下痢および発熱の症状があったため、帰国時に関西空港検疫所で検査を実施したところ赤痢菌(ソネ型)が確認されました。

手足口病については、先週の定点当たり患者数0.42より急増し0.85となり、特に、彦根保健所管内では4.00と多くなっています。昨年の同時期の発生状況と比較するとやや早い時期から増加しはじめ、定点当たり患者数も多くなっているため今後の発生動向に注意する必要があります。

水痘については、先週の定点当たり患者数2.36よりさらに減少し1.55となっています。彦根保健所管内の定点当たり患者数も2.75となり先週よりかなり減少しています。今後の発生動向については、例年どおり減少傾向を示すと考えられます。

ヘルパンギーナについては、先週の定点当たり患者数1.94よりさらに増加し3.03となっています。特に、今津保健所管内の定点当たり患者数は9.00と非常に多くなり、大津、草津および長浜保健所管内においても急増しています。

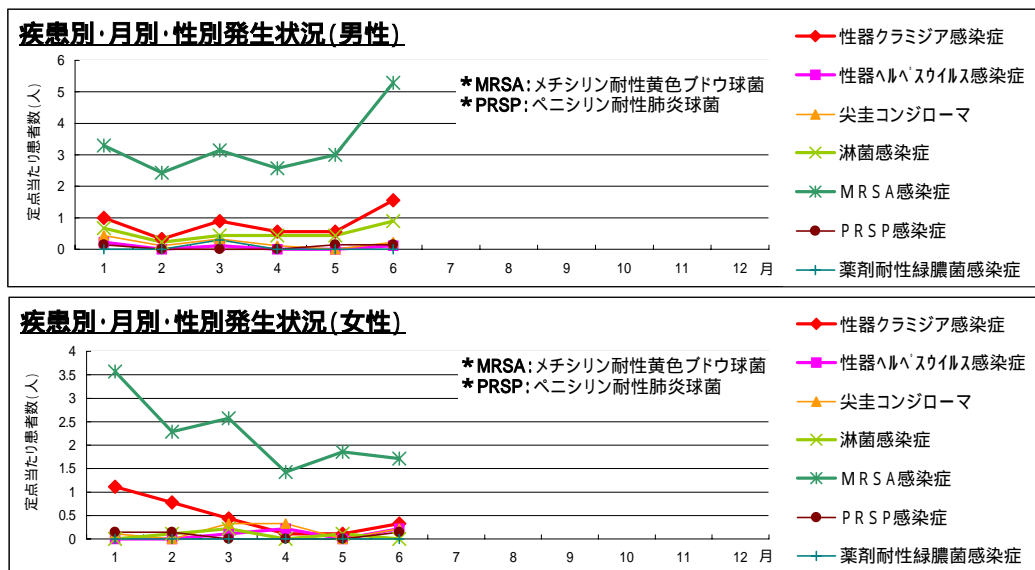
麻しんについては、第22週(5/30～6/5)以降散発的に発生しており、昨年の同時期より多くなっています。患者発生の報告は大津、草津および彦根保健所管内からあり今週は彦根保健所管内からの報告が多くなっています。

海外渡航時の感染症予防について

概要-----滋賀県感染症情報(SIDR)第5巻第9号の特集に掲載しています。

詳細-----海外渡航者のための感染症情報(厚生労働省・海外感染症情報)に掲載しています。

4) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成17年1月～6月)



性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、薬剤耐性緑膿菌感染症以外の感染症は増加しています(詳細については性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況のグラフ参照)。

各疾患の月別・性別発生状況は上記のグラフのとおりです。男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症およびMRSA感染症が急増し、女性では性器クラミジア感染症および性器ヘルペスウイルス感染症がやや増加しています。その他の感染症については大きな変化はみられません。

< 特 集 >

海外渡航時の感染症予防について

海外渡航時に感染するおそれのある感染症には、エボラ出血熱、痘そう(天然痘)、ペスト、コレラ、赤痢、アメーバ赤痢、腸チフス、マラリア、デング熱、破傷風、レプトスピラ症など多数の疾患があります。

これらの感染症を予防するためには、

1. 予防接種をする
2. 食べ物に注意する
3. 昆虫(特に蚊)に刺されないようにする
4. 動物との接触に気をつける

ことが大事です。

予防接種が可能なワクチンには、黄熱、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、狂犬病、日本脳炎などがありますが、渡航期間、渡航先、渡航先の活動内容等によって違いますので予防接種機関や検疫所で相談する必要があります。

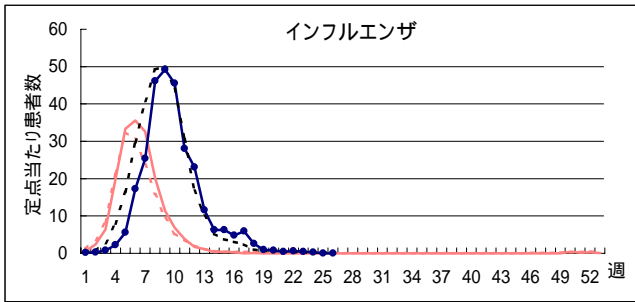
また、海外で感染症に感染していてもすぐに発病しないこともありますので、海外から戻った後2ヶ月程度の間、体調に異常があれば早めに医療機関を受診することが必要です。迅速な診断・治療のためには、受診時に海外へ行ったことを必ず医師に話しすることが大事です。

主な感染症の感染予防のポイント

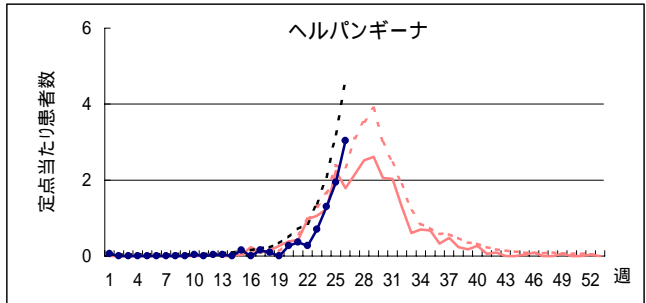
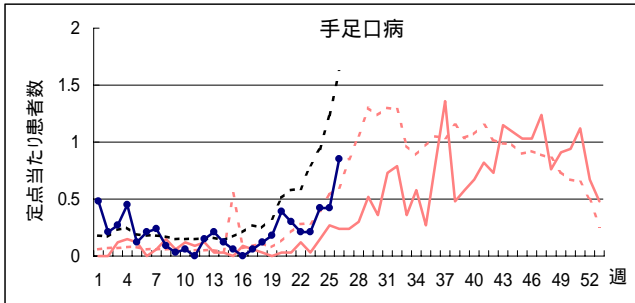
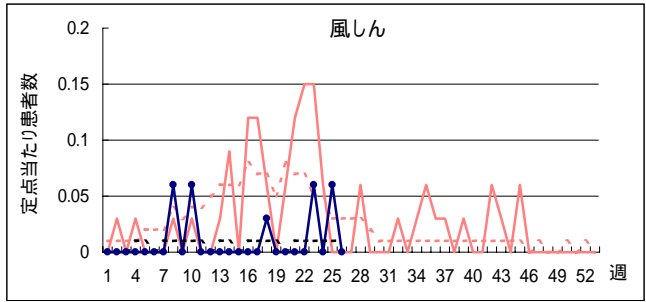
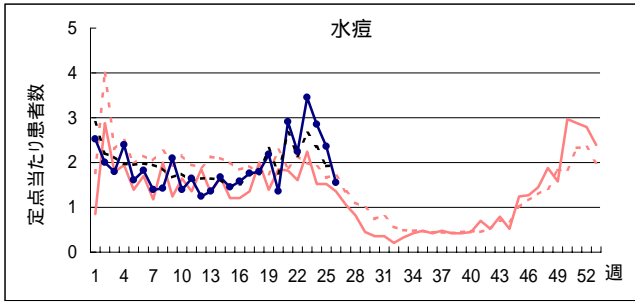
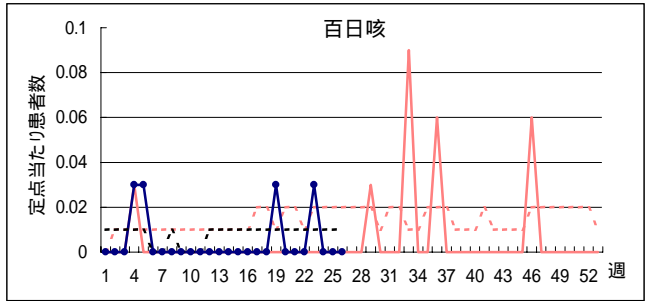
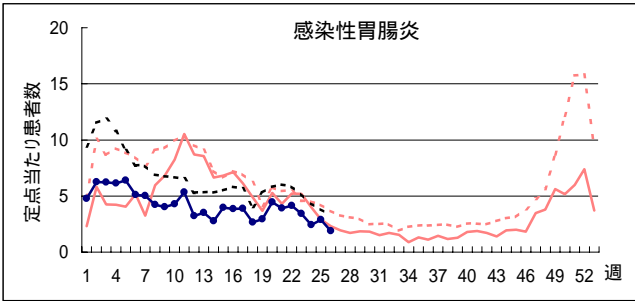
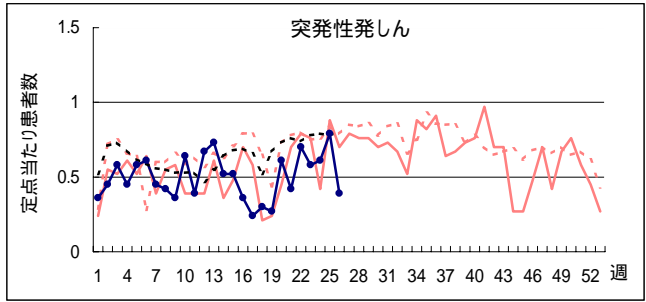
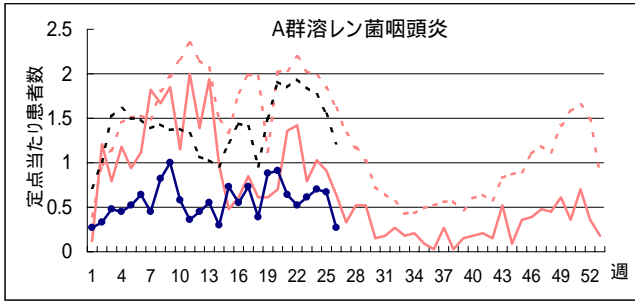
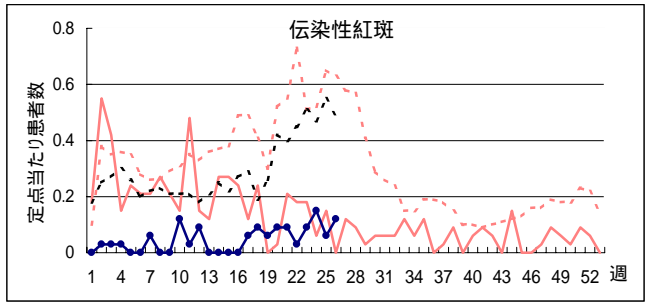
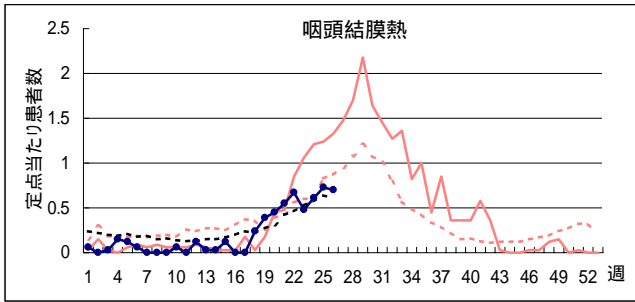
- 海外渡航者のための感染症情報(厚生労働省検疫所)より -

感染経路	感染する疾患名	予 防 方 法
飲食物から感染	赤痢、コレラ、腸チフス、A型肝炎など	<ul style="list-style-type: none">・A型肝炎はワクチンを接種する。・水道水などのなま水(氷を含む)を飲まない。・魚介類、肉類は十分に加熱し熱いうちに食べる。・野菜は生野菜を避け、加熱して食べる。・果物は皮をむいてすぐに食べる。
昆虫から感染	マラリア、デング熱、黄熱、ペストなど	<ul style="list-style-type: none">・黄熱はワクチンを接種する。・ペストはネズミ駆除と衛生状態に気をつける。・マラリアやデング熱は蚊に刺されないように気をつける(防虫スプレー、長袖の服、長ズボンの着用)。
動物から感染	狂犬病など	<ul style="list-style-type: none">・犬、猫に噛まれないようにする。・キツネ(ヨーロッパ)、アライグマ(アメリカ)、コウモリ(アメリカ)などの野生動物にむやみに手を出さない。
ヒトから感染	性病、AIDS、B型肝炎、エボラ出血熱など	<ul style="list-style-type: none">・B型肝炎はワクチンを接種する。・患者の体液や血液に触れない。・不特定の相手と性行為を行わない。・麻薬に手を出さない(注射器を使い回ししない)。
皮膚から感染	住血吸虫など	<ul style="list-style-type: none">・河原や湖畔を裸足で歩かない。・裸足で水に入ったり泳いだりしない。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第26週、H17.1.3～H17.7.3)

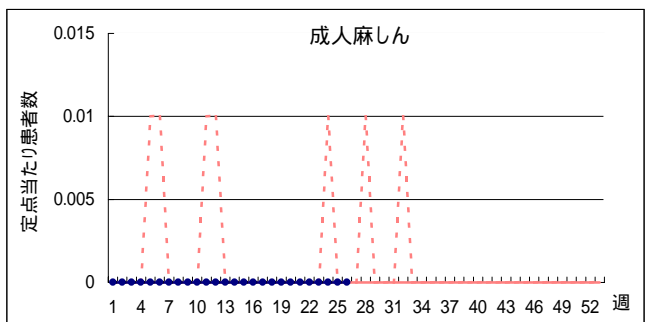
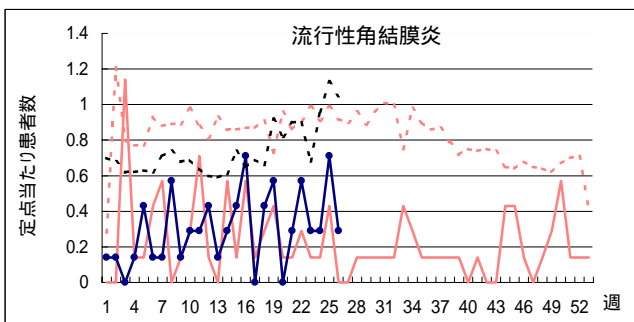
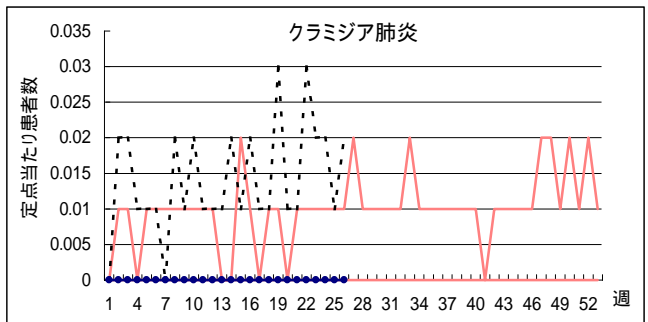
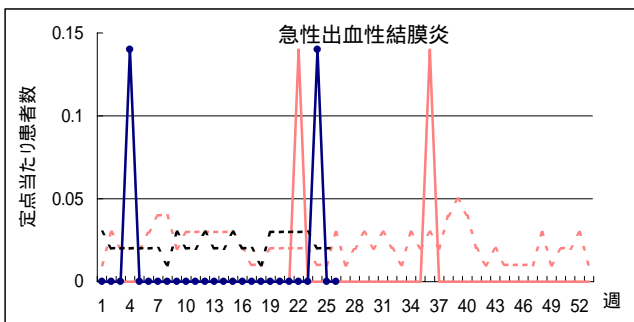
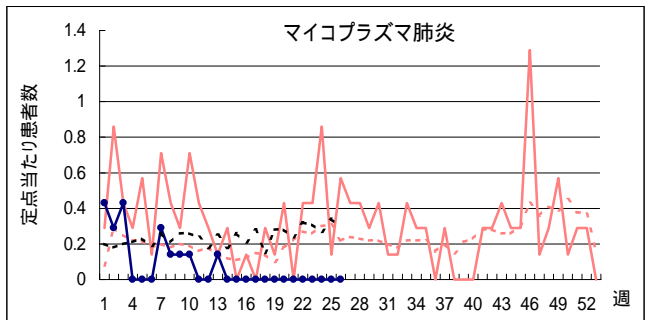
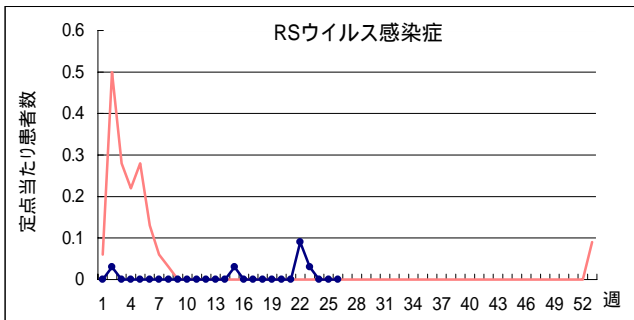
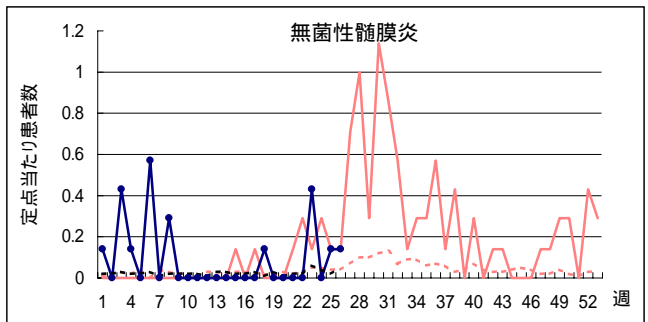
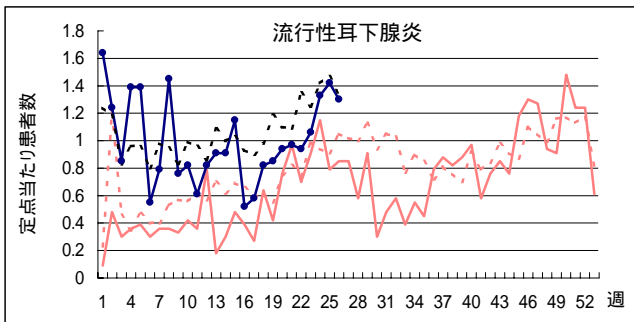
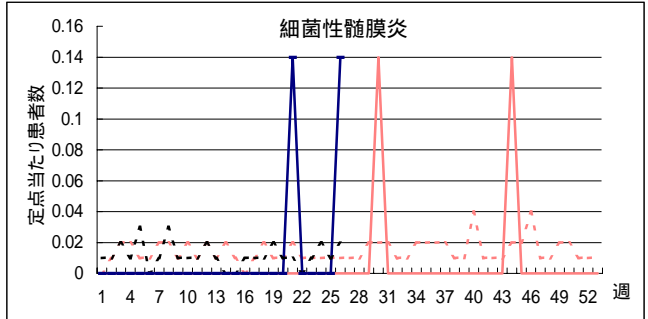
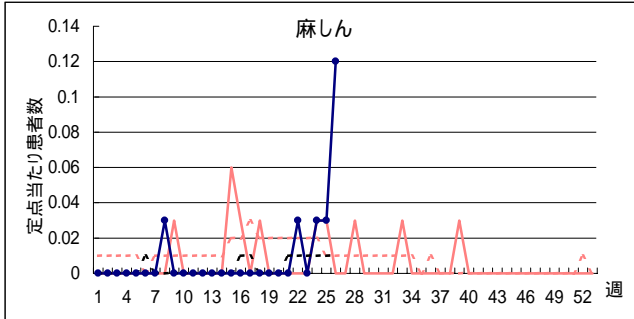


H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第26週、H17.1.3～H17.7.3)

H16 { 滋賀 ———— 全国 }
 H17 { 滋賀 —●—●— 全国 - - - - - }

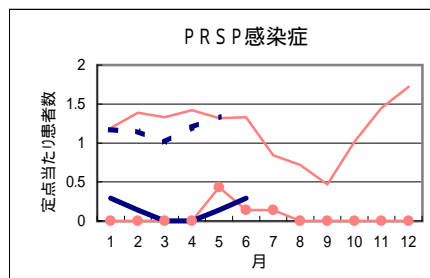
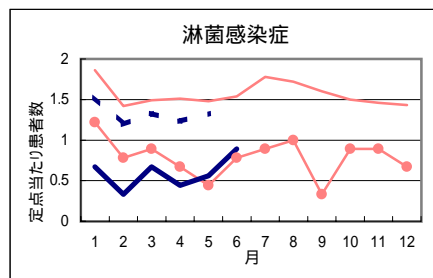
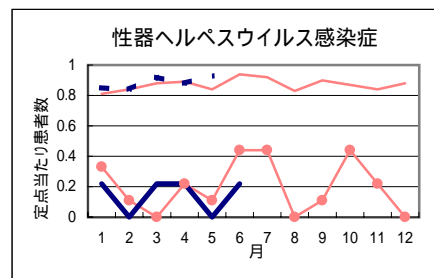
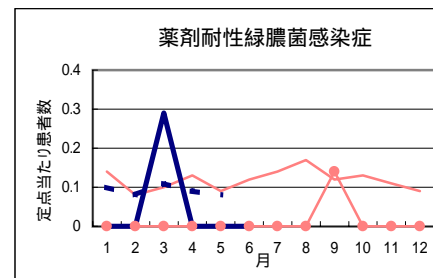
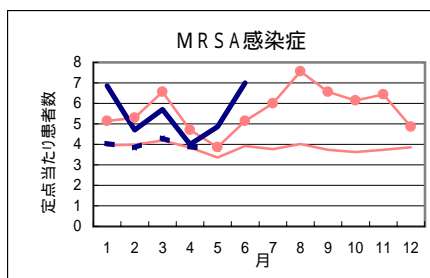
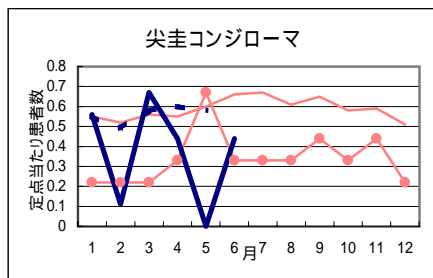
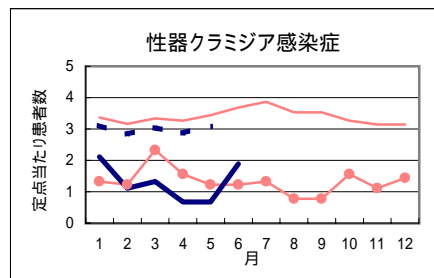


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(滋賀県)

6月報 (集計期間:平成 17年 1月～6月)

戻る

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
性器クラミジア感染症	罹患数	19	10	12	6	6	17							70
	定点当たり	2.11	1.11	1.33	0.67	0.67	1.89							1.30
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	2	0	2	2	0	2							8
	定点当たり	0.22	0	0.22	0.22	0	0.22							0.15
尖圭コンジローマ	罹患数	5	1	6	4	0	4							20
	定点当たり	0.56	0.11	0.67	0.44	0	0.44							0.37
淋菌感染症	罹患数	6	3	6	4	5	8							32
	定点当たり	0.67	0.33	0.67	0.44	0.56	0.89							0.59
MRSA感染症	罹患数	48	33	40	28	34	49							232
	定点当たり	6.86	4.71	5.71	4.00	4.86	7.00							5.52
PRSP感染症	罹患数	2	1	0	0	1	2							6
	定点当たり	0.29	0.14	0	0	0.14	0.29							0.14
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0	2	0	0	0							2
	定点当たり	0	0	0.29	0	0	0							0



H16 { 滋賀 ●●●
 { 全国 ———
 H17 { 滋賀 ●●●
 { 全国 ———

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
 PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌